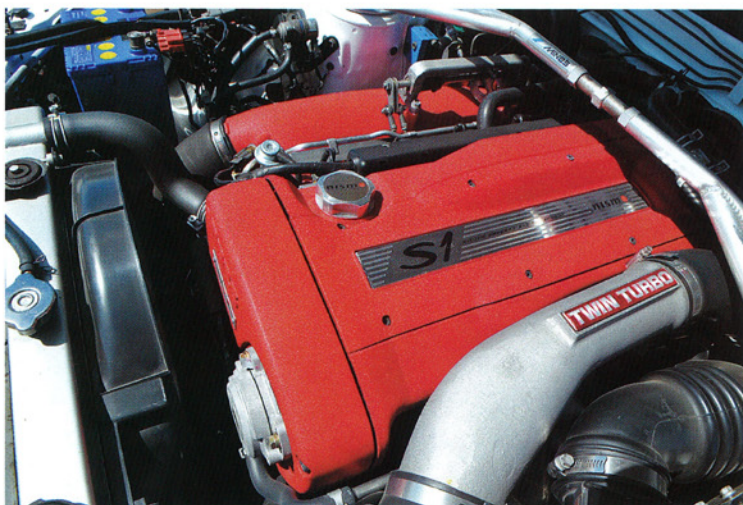


RB26DET専用エンジンオイル 仕様確定



3年前、山本はニューテックの鳩谷和春代表に、「GT-R専用の最高級オイルを作っていたきたい」と熱く語った。だが、鳩谷代表からすぐに良い返事はもらえなかった。なぜなら、「既存の最高級品が持つ性能を凌駕してほしい」という極めて困難な要求だったからだ。鳩谷代表は苦悩したに違いない。「何としても山本の思いを形にしたい。だが、そう簡単にはいかない」と。

©ニューテック ☎045・628・2055 <http://www.nutec-japan.com>
文:山本浩伸(本誌)/中山智和(マインズ) 写真:大西 靖/宮本賢次(本誌)



優しいエンジンの鼓動で
皮膜形成の完了を実感!

「GT-R紀行で北海道へ行きます。すでに試作品を注入したR34GT-Rニル号の走行距離は3000kmを超え、R32VスベII号については出発前日にオイルを交換します。おそらく、2000km強を走るようになるでしょう。普段通りの運転でテストを重ねてきます」と山本は、鳩谷代表にテスト方針を告げる。

「今回用意した試作品で、間違いなく山本さんから合格を頂けると思いますが。とにかく、ガンガン走ってみてください。そして、少しでも不満を感じたら、教えてください。何度でも改良します」と鳩谷代表は言う。さて、一気に製品化に漕ぎ着けるか? もし、山本が納得できなければさらなる改良を行うため、予定している発売日から大幅に遅れる可能性がある。だが、山本にとってGT-R専用オイルの誕生は、最大の夢である。徹底的にやり遂げたい。

この思いを胸に、嘘偽りのないテスト結果を報告する。なお、テストの公正を期すために、マインズの中山智和に参加してもらった。

R34GT-Rニル号に試作品を注入して300kmを走った段階では目ぼしい変化が見られなかった。ただ何となくだが、エンジンが穏やかに優しく回っているような気がした。それから100km、200kmと距離を延ばしても、何かが変わったという印象はない。

「まさか、失敗?」。結局、北海道へ旅立つまで1000km強を走ったが期待した結果は得られなかった。R34GT-Rニル号の出だしは鈍重だ。これは車両の特性だから、オイルを入れただけで変化を期待す

